

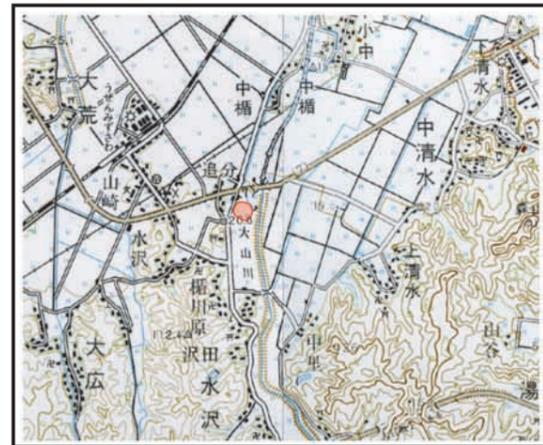
行司免遺跡発掘調査説明資料

調査要綱

遺跡名	行司免遺跡（ぎょうじめんいせき）		
遺跡番号	平成16年度登録		
所在地	鶴岡市水沢字行司免		
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所		
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）建設事業		
調査面積	2400㎡		
現地調査	平成19年6月4日～平成19年11月6日		
遺跡種別	墳墓・祭祀跡		
遺構	河川跡・溝跡・土壇・杭列		
遺物	土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・金属製品・古銭		
調査担当者	調査課長	長橋至	
	専門調査研究員	黒坂雅人	
	調査研究員	三浦勝美（調査主任）	
	調査員	向出博之	
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所 庄内教育事務所 鶴岡市教育委員会		

2007年10月14日（日）

（財）山形県埋蔵文化財センター



遺跡位置図（1：25,000）

1. 調査の概要

行司免遺跡は、日本海沿岸東北自動車道の建設工事に先立ち、県教育委員会が実施した分布調査を経て、万治ヶ沢遺跡・木の下館跡・興屋川原遺跡・玉作1遺跡・玉作2遺跡・岩崎遺跡・南田遺跡などとともに、平成16年度に登録された遺跡です。

これらの遺跡は、日本海沿岸東北自動車道の用地内に所在するため、日本道路公団東北支社（現 東日本高速道路株式会社東北支社）と山形県教育委員会との間で遺跡の取り扱いについて協議がなされ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが記録保存のための緊急発掘調査を行うことで合意しました。

これを受け、平成16年度に、本調査に向け詳しいデータを得るための1次調査を行いました。平成17年度から本調査を開始し、今年度の調査（4次調査）で最後となります。

2. 遺跡の立地と環境

行司免遺跡は、JR水沢駅から南東に約1kmのところであり、大山川の左岸の沖積地上に立地し、標高は16～17mを測ります。現在の遺跡周辺は、圃場整備により平らで肥沃な水田地帯となっています。しかし、奈良から平安時代にかけての遺跡周辺は、微高地や低湿地が入り乱れていたと考えられ、微高地も増水のたびに冠水し、土砂が堆積した様子が土層の観察からも伺えます。そのため、奈良時代から平安時代にかけての文化層が2～3枚重なるように見つかり、8世紀末～10世紀始め頃の土器の移り変わりの資料を得ることが出来ました。行司免遺跡の周辺には、今年度調査が行われた興屋川原・玉作1・矢馳A・岩崎遺跡をはじめ、奈良時代から平安時代の遺跡がたくさんあります。

3. 遺構

これまでの調査により、平安時代中頃の文化層（I層）と、平安時代前半頃の文化層（II層）、奈良時代末から平安時代はじめ頃の文化層（III層）があることがわかっています。今年度の調査ではI層の上にも文化層が検出されました。遺物の年代はI層に近いようですが、詳細な検討はこれからとなります。

昨年度までの調査で、木棺墓、土壇墓、火葬に関わる遺構などが見つかり、行司免遺跡は墓域であったことがわかりました。木棺墓は全て取り上げ、上市市にある埋蔵文化財センターで保存処理を行っています。このうち1基は保存処理が完了しました。

しかし今年度の調査では、お墓そのものは見つかりません。見つかった遺構は、炭・土器・礫が集中する地域、大溝、溝、土壇です。

炭・土器・礫が集中する地域は、土層で最も多く、一時は調査区のほとんどが炭や遺物で埋め尽くされました。この炭の集中箇所の直下から土壇が検出されることが多く、両者は何らかの関係があったと思われます。



調査区全景（西より）

4. 遺物

行司免遺跡からは、土師器・須恵器・赤焼土器などの土器が最も多く出土し、斎串、箸、刀形などの木製品が出ています。土器は、灯明皿として使われていたものや、焼けて変色している須恵器など、本来の目的である食器や保存容器以外の用途が見うけられ、通常の集落から出てくる土器とは、様子が異なります。

また硯の存在からも、付近に有力者がいたことが想像できます。なぜなら、当時において文字が書ける人は役人などに限られていたからです。

この他、赤い塗料が付着している石や、細長い石など、変わった石が出てくることも特徴的です。

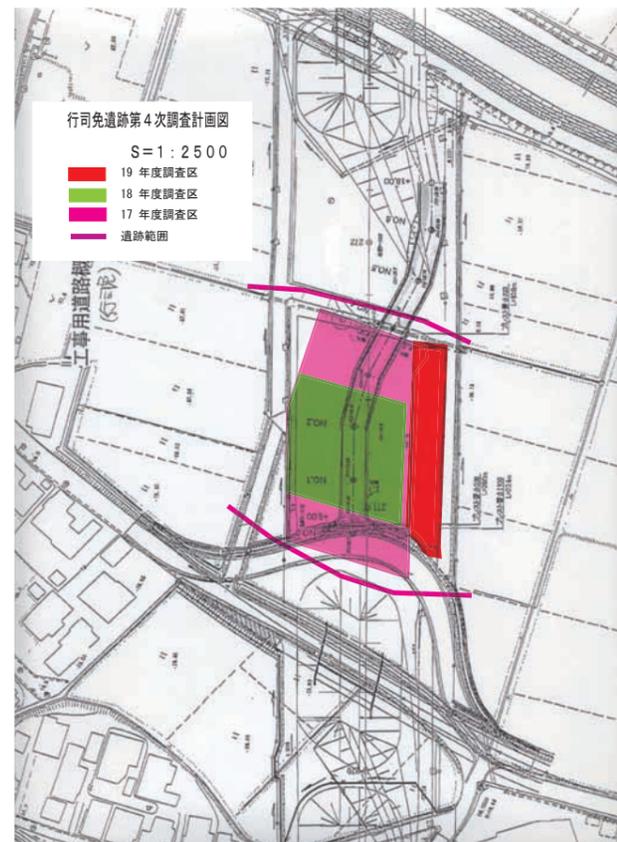
注目すべき遺物に、底の部分に「矢作（やはぎ?）」と思われる文字が記された土器があります。仮に、この文字が「やはぎ」であるなら、人名をさす可能性が高いと思います。類例は昨年度の遺物にも見られ、人名をさすと思われる「穴太（あのを）」という文字が書かれている土器が出土しています。また、実際に古代の河内（大阪府八尾市）には、矢作氏という豪族がいました。

5. まとめ

昨年度の調査区では、お墓が見つかったのに対し、今年度では炭の集中箇所が多く発見されているという違いがあります。可能性として、昨年度の調査区が埋葬の場、今年度の調査区が葬送儀礼の場と考えられます。平安時代の葬送儀礼についてはわからない部分もあり、行司免遺跡の調査は貴重な事例になると思われます。



「矢作」と書かれた須恵器



行司免遺跡第4次調査計画図（1：2500）



炭化物集中域 2 遺物出土状況



溝跡 4 断面



炭化物集中域 1 遺物出土状況



炭化物集中域 1 遺物出土状況



溝跡 3 遺物出土状況

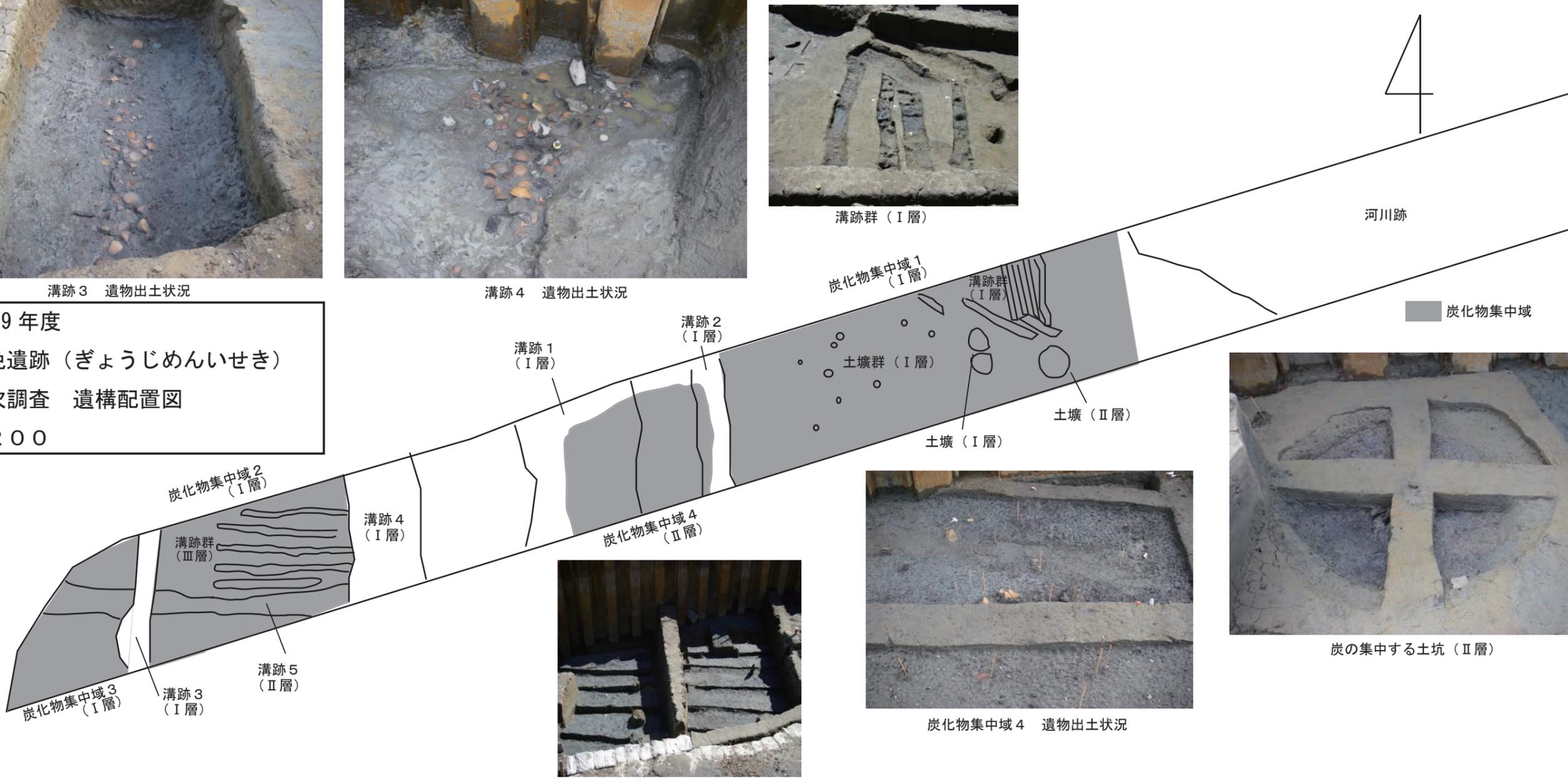


溝跡 4 遺物出土状況



溝跡群 (I層)

平成 19 年度
行司免遺跡 (ぎょうじめんいせき)
第 4 次調査 遺構配置図
1 : 200



炭の集中する土坑 (II層)



炭化物集中域 4 遺物出土状況



溝跡群 (III層)